

山口県山岳連盟 小林会長挨拶

この度は、山口県山岳連盟主催の研修会に県内のみならず遠路、ご参集いただき、遭難対策に対する思いを山の仲間として嬉しく、感謝申し上げます。

この春、4月27日の白馬大雪渓での雪崩遭難事故で、傘下の会員2名が亡くなるという本当につらい遭難事故でした。誠に残念な出来事でございます。

亡くなられた若いお二人のご冥福を祈りますとともに、宇部山岳会では反省を込めて報告書作成のため、事故の検証、そして再発防止のための方策を話し合ってきました。ご努力頂いた方々にお礼を申し上げます。

今回の研修会ですが、今まで岳連として、遭難対策として研修会を行ってまいりましたが、これまでのレスキュー中心の研修を、この事故の反省をもとに、安全登山、遭難防止のために皆で考えよう、その人なりに注意点を発見していただこうと、シンポジウム形式といたしました。

私ども、なれない研修方式でございますが、遭難事故の状況、救助搜索の報告を聞いていただき、さらにパネリストの話をご聴講いただき、ご出席の皆さんに、気がかりな事、私はこうしている事、など、積極的に発言して頂きたいと思えます。

長期にわたる救助搜索活動を搜索犬を使って献身的に努力して頂いた長野県のNPO法人アクトの元村さん、また、搜索を出来るだけ早く終わらせ家族のもとに帰してあげたい、その御心で支援して頂いた東京都岳連の廣川さん、本当にありがとうございました。

この場を借り、改めてお礼申し上げます。
さらに本日は山口までお越しいただき、ありがとうございます。

又、中国ブロックの各県からも搜索において、色々ご支援、ご教示を頂きました。ありがとうございます。その上、本日のこの研修会にもご参集いただいています。シンポジウムでは貴重なご意見を頂けると思えます。よろしく願いいたします。

それでは、慣れない形式での研修会ですが、お一人お一人のご参加によって、有意義なものとしてください。
事故を「他山の石」とせず、自分のことととらえ、一点でもいいですから今後に活かしてくださるようお願いし、挨拶いたします。